

第2回 学校関係者評価委員会

1 実施日 令和3年1月18日 (月) 午後4時～5時

2 会場 図書室

3 参加者 学校関係者評価委員 中澤 弘 (教育振興会会長) 志村 成美 (教育振興会副会長)
清水 龍二 (教育振興会副会長) 戸澤 聡 (教育関係有識者)
竹山真由美 (主任児童委員)
大塚 貴子 (保護者代表・PTA会長 学校関係者評価委員長)
菊地めぐ美 (保護者代表・PTA副会長)
学校側 望月 政幸 (校長) 大原 千栄子 (教頭)
田原 和仁 (教務主任) (生徒指導主任)

4 学校側から提案された内容

- (1) 教職員自己評価 (教務主任) (2) 児童アンケート (生徒指導主任)
- (3) 保護者アンケート (教頭) についての解説や考察, 具体的な学校の様子を説明した。

5 協議された主な内容

学校側からの説明を受け, 学校関係者評価委員長が座長を務め, 座談会を行った。

※○……委員からの意見・感想 ☆……学校の考え

(1) 教育活動について

【相談体制について】

○Ⅲ-4「子どものことで気になることがあれば, 学校 (担任) に相談している。」が後期もポイントが下がり, それと関連しⅠ-7「先生は子どもの話をよく聞き, よく理解してくれ, 保護者からの相談に適切に対応してくれる。」もやや低くなっているが, 学校としてはこの状況をどう分析しているか。

○保護者の立場からすると, 本年度はコロナウイルス感染症対策の関係で, なかなか担任の先生に会うことができなかった。2学期末の個別懇談で初めて話をした。気軽に相談することができなかった。

☆本年度は家庭訪問が実施できず, 運動会も午前中のみ開催, 学校開放日として1時間授業を見てもらった。そのような状況で保護者との信頼関係を十分に築くことができなかった現れであると思う。今年度は, 大きな問題も起こらず, 深刻な相談も寄せられてはいなかった。また, 学校通信等でどんな小さなことでも気になることがあったら学校へ伝えてほしい旨を発信している。これを機に, 来年度は1学期から保護者との信頼関係を作っていくように努めていきたい。

【外部への情報発信について】

○ホームページを活用して, 学校の様子を発信していることはとてもよい。また, 一斉メールを活用し, お知らせを出すことも情報発信として効果があるのでは。

☆本年度からホームページを活用し学年の教育活動の様子を定期的に伝えている。また, 担任が学年便りや学級便りを出して, 行事予定や学習内容, 児童の様子等を伝えている。

【学級通信について】

- 学級通信を出すことについて、担任によってムラがある。学級通信を出す教師はたくさん出すが、出さない教師は全く出さず、差が大きい。学年間で差があるのはよくないと思うので、そろえた方がよい。
- ☆学年により学年・学級通信の出し方は様々である。低学年であれば、週案のように毎週出して、学習内容や持ち物等も知らせていく。高学年になると学習の様子や児童の様子等を知らせたり、家庭へのお願いを書いたりしている。担任自身がどこに重きを置きたいかで取組が違ってくる。担任が学級集団づくりに重きを置けば、クラスの様子等を家庭や児童に発信していく。学習に重きを置くのであれば、教材研究等に時間を割いていく。それぞれの教師で力点の置き方が違うのも事実である。
- 管理職から学級通信を出してくれとは言えないと思う。また、教師が学級経営をどう考えるかが重要になってくる。学校のホームページ等を利用して保護者が必要な情報を出していくことが大切。
- 子どもと教師がどう絆を作っていくかが問題なので、お互いが切磋琢磨すればいい。子どもとの接点をどう持つかが大切になってくる。地区では、「できる人ができるときに協力できる」体制を取っている。

(2) 生徒指導について

※ 特に話題に上らなかった。

(3) 安全・安心について

【災害時の避難所について】

- ☆学校の体育館の補修工事が終わり、今後本校の体育館も災害時には避難所になる。有事に備えて学校としては地域の防災リーダーとの打ち合わせ等を行っていききたい。地区の防災についての確認をして行きたいと思うが・・・。
- 百々地区は、自治会と学校で確認すればよいと考えている。打ち合わせはできる。防災の日の避難訓練は自治会が進めている。地区の防災についてもどこかで見通しを持って進めていくことがよい。
- 上八田地区は、一区は八田小が避難所、他の地区は百田小になっているので、対応が複雑になる。しかし、防災関連トップが自治会長になっているので、自治会長を要にしていけばよい。防災管理課で地区の役員を任命し、その人が地区の担当になる。しかし、防災管理課は防災リーダーを派遣していくようではあるが十分に要請しきれていない。防災対策は地域の一番の課題だと考えている。
- ☆避難所開設のマニュアルをきちんと作成したい。基本的なマニュアルはできているが、地区とのすり合わせができていない。少しでも話し合いの場を持ち確認をしていききたい。学校の避難所開設のレイアウトを見てもらい、修正をしていききたい。
- ☆今年度中には、避難所開設のマニュアルを百々・上八田両地区と交流し、加除修正していききたい。

(4) その他

【教師の多忙化について】

- 先生方はとても忙しい。今後も業務の軽減化を図っていくことが必要である。
- ☆先生方は大変誠実に頑張っている。行事や会議の精選を行ってはいるが、人的配置がほしい。

【集金について】

- 集金を集める期間が長く先生方が大変ではないか。逆に親がうっかりしてしまう。
- 多忙化解消の点からも今後手集金を口座引き落としにしていくことがよい。
- ☆手集金のメリット、デメリットはあるがJAが対応していないのでしばらくは手集金を行っていく。集金日等の周知については、工夫が必要である。郵便局も含め金融機関等も再度検討していききたい。

6 全体評価

全体傾向を把握するため、[A：そう思う][B：ほぼそう思う]という評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』、[C：あまりそう思わない][D：そう思わない]

という評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある』と判断している。

(1) 教職員自己評価について

35問中全問において、肯定的評価85%を超え、満足できる状況にあると考えられる。前期で評価が低かった「各教員が、多忙化解消に向け、意識した取り組みを実践している。」も55%から92%に大きく伸びた。2学期に多忙化改善に向けた意識改革に取り組んだ成果が出てきていると考えられる。今後も多忙化改善が教職員一人一人に実感できるような取り組みを行っていく。また、前期で75%だった「総合的な学習では、ねらいをふまえた活動計画を立て、実践している」が88%に転じた。コロナ禍でいくつかの制限はあったが、その中でも総合的な学習のねらいを意識して実践できたと推測できる。

(2) 児童アンケート評価について

11問中10問において、肯定的評価が80%を超えている。前期に引き続き、改善の余地があると判断される内容は、「自分で考えたことを、進んで発表している。」である。前期同様、「勉強がわかる」「しっかり聞く」は肯定的な評価を得ているが、なかなか自分の考えを発表することができない児童がいる。また今年度は、コロナ禍で学習のスタイルが変わってしまったことも一つの要因になっていると思われる。感染予防対策で話し合い活動ができないが、主体的に学習活動へ取り組み、自分の考えを発表、発信し高めあう子どもを今後も育てていきたい。

(3) 保護者アンケート評価について

前期と比べ、20問中18問で肯定的評価が80%を超えている。このことから学校教育に対しての保護者の評価は安定して高いと捉えることができる。また、アンケート回収率も99.3%と非常に高い。【子どもの様子について】の「子どもは、学習が分かり、基礎学力が身につけている」かの項目が75.2%と低かった。長い臨時休校措置の影響で学力の定着への不安があると考えられる。しかし、コロナ禍で様々な制約はあったが、いくつかの学校行事は実施することができた。また、ホームページ等でも学校の様子を配信することができたことが高評価につながったと分析することができる。

(4) まとめ

後期の学校評価においても、高い水準で肯定的に回答されている。このことは、本校の教育活動が安定して行われていると考えることができる。改善の余地がある項目は、特に、学校教育に関わる内容であり、今回のアンケート分析でも課題となっている。特に基礎学力の定着と学力の向上については、学校としても重点的に取り組んできているが、保護者が納得できる学力が児童に身に付いていない状況がある。今後も本校の重点課題として、教師が一丸となりきめ細かく丁寧な学習指導に取り組んでいく。

7 今後の課題として意識されたこと

- (1) 具体的な本校の課題としては、前期と同様に児童の学力の向上と安全・環境への対応である。この2点が少しでも改善できるように、学校全体で取り組んでいきたい。また、保護者や外部機関と連携を図り、丁寧に対応していく。
- (2) 保護者の学校への期待はとても大きい。学校は、その期待に応え、また、保護者の信頼を得、かつさらに深める教育活動を展開しながら、学校教育目標の具現化に努めていく。

8 特記事項 なし

